

【これまでの方針と課題】

山間部を中心に林業が雇用や地域振興に寄与しているため、これまで木材生産を主体とした林業を中心に森林経営を行ってきた。しかし、木材価格の低迷や従事者の高齢化など、林業、木材業界が厳しい状況となり、管理不足が原因で荒廃した人工林が増加し、山地災害を引き起こす恐れが高くなっているため、適切な森林の管理が急務となっている。

【今後の方針】

市内の森林を「環境林」、「循環林」と区別し、森林経営管理を行っていく。「環境林」は森林の有する公益的機能の高度発揮を目指し、「循環林」は森林の有する公益的機能に配慮しつつ、木材生産を主体とした資源の循環利用を行う。

有識者や実務的な知見を有した方で構成した「静岡市持続可能な森づくり研究会」で意見をいただき「環境林」と「循環林」の区分に応じた森林経営管理を行うことで、経済価値だけでなく、環境価値を有する森林を将来世代につなげていく。

環境林

- ・森林カーボンのクレジット創出促進事業
民間事業者が市内において持続可能な森づくりに取り組むインセンティブとなる新たな価値を有する森林カーボンのクレジット創出モデルを作る
- ・持続可能な森づくり事業
管理されていない森林を環境林として適正に管理していくため、経営管理の委託を受け、静岡市が再造林を行う。
- ・森林経営管理制度事業
適正に管理されていない人工林を所有者の意向調査を行い、調査結果をもとに経営管理集積計画を策定する。

循環林

- ・木材の情報共有システム構築事業
地域材活用促進事業としてICTを活用した、取引情報を事業者全体で共有できるプラットフォームを構築
- ・民有林造成に対する補助
森林経営計画策定者に対する間伐、作業道、間伐材搬出等の上乗せ補助を行う。
- ・オクシズ材活用促進事業費補助金
オクシズ材を活用した住宅・非住宅の新築・増改築等を行う施主に対する木材使用量に応じた補助金の交付。

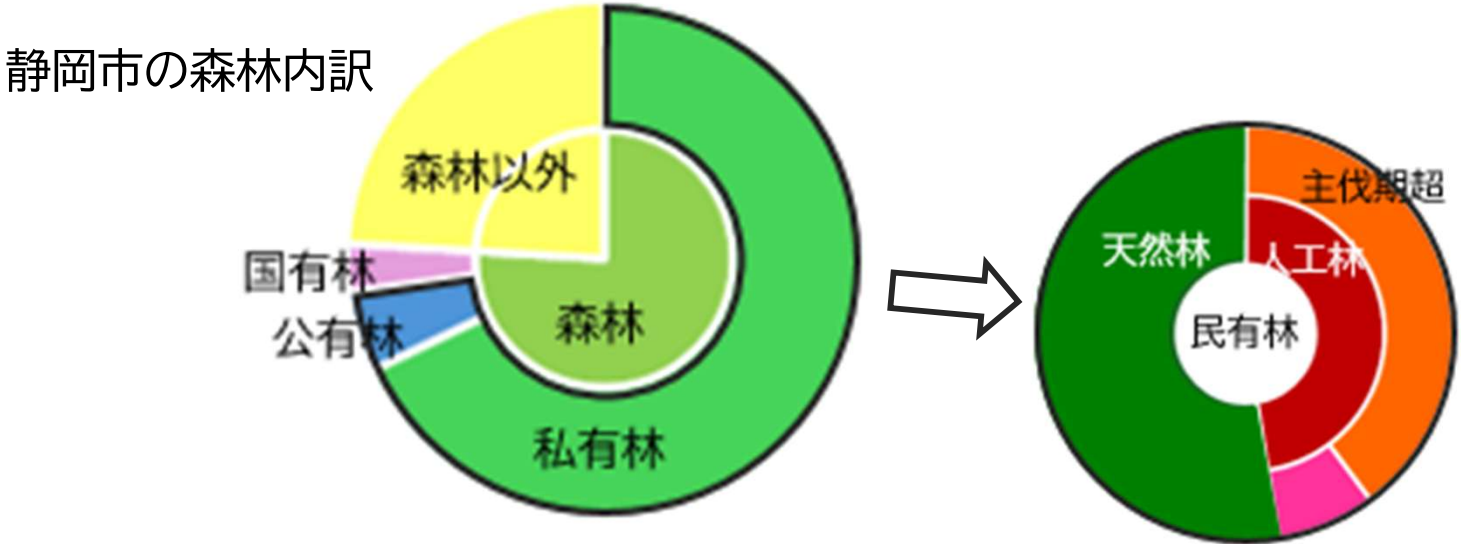
7-2 森林政策(概要)

静岡市の森林面積は約10万7千ヘクタール(全国6位)で、県内平均の約64%を上回る市総面積の76%を占める。この広大な森林を適正に管理していくことは、静岡市にとって非常に重要。

この森林は、木材生産だけでなく、山地災害防止、生物多様性保全、地球環境保全など、様々な公益的機能を持つが、林業経営が低迷する中、適正な森林管理が実施されないことにより、公益的機能を発揮できない荒廃した人工林が増加している。

この状況では、土砂災害等の発生リスクを増大するおそれがあることから、森林の有する公益的機能を高度に発揮できるよう、関係者が目標を共有したうえで、適正な森林経営管理を推進する必要がある。

このため、「静岡市持続可能な森づくり研究会」を組織し、有識者や実務的な知見を有する方から意見をいただきつつ、**静岡市における適正な森林経営管理の指針となる(仮称)静岡市森林経営管理計画を策定する。**



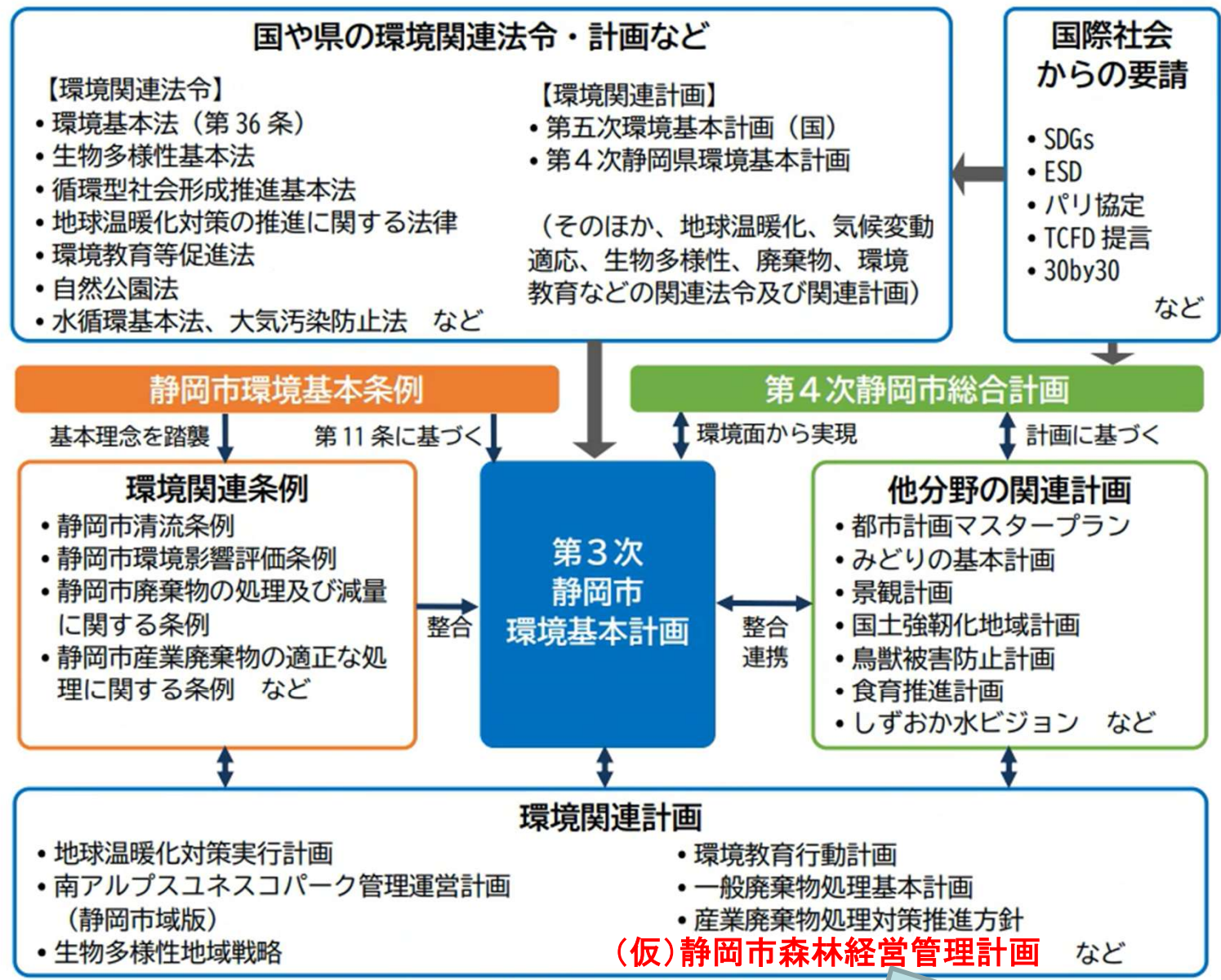
7-3 (仮称)静岡市森林経営管理計画 研究会協議内容

研究会スケジュール

	4月28日【第1回】	5月28日【第2回】	6月30日【第3回】	7月30日【第4回】	8月	9月9日【第5回】@水道庁舎
テーマ	研究会の趣旨と方向性の共有	循環林の管理方針	環境林の管理方針	木材利用拡大に向けた方策		これまでの議論の整理と広葉樹林管理(仮)
内容	<ul style="list-style-type: none"> 計画の策定目的と研究会の役割スケジュール 市内森林の地形条件に因る問題 市内林業の木材流通に係る問題 市内森林の所有状況に因る問題 循環林と環境林へのゾーニングの基本的な考え方と今後の方向性 	<ul style="list-style-type: none"> 並材大量生産による立木価格の低下 林業従事者の減少 主伐期を超えた針葉樹人工林 循環林のあるべき姿 	<ul style="list-style-type: none"> 環境林の方向性 森林が公益的機能を発揮するしくみ 静岡市の森林基盤の状況 静岡市の森林植生の状況 災害に強い森林 災害に強い環境林へ移行する施策イメージ 環境林にゾーニングするまで 新しい森林カーボンクレジットの創出について 	<ul style="list-style-type: none"> 市産材の主な用途 市内の木材の流通 木材流通の現状と問題 <p>※8/22へ延期</p>	お休み	<ul style="list-style-type: none"> これまでの議論の整理 広葉樹林管理について 森林計画に反映すべき具体的な内容の確認 提言まとめ
スピーチ話題提供		<ul style="list-style-type: none"> 速水委員 静岡市林業研究会山田氏 	<ul style="list-style-type: none"> 相馬委員 静銀経営コンサルティング堀氏 	<ul style="list-style-type: none"> アトリエサクラ 湯浅氏 NODA 原木部 宇佐美氏 		<ul style="list-style-type: none"> 近畿大学 正木教授 岐阜県森林アカデミー 横井特任教授

	10月7日@歴史博物館	11月6日@歴史博物館	12月9日@水道庁舎	1月13or14or15日	2月9or10日@市役所新館9階	3月9or10日
テーマ	【第6回:計画案の検証】	【第7回:市民への啓発】	【第8回:林業事業者の育成】	【第9回:新規事業のフォローアップ】	【第10回:市民意見等の確認】	【第11回:研究会の方向性の共有】
内容	<ul style="list-style-type: none"> 実施体制、関係者の役割整理 進捗管理と評価方法(PDCAサイクル、OODAループ、順応的管理) 課題、リスクとその対策 次のステップに向けた検討(追加調査の必要性など) 	<ul style="list-style-type: none"> 森林について学ぶ機会の創出 市民・企業の参画促進(興味・関心の向上、参加しやすい仕組みなど) 具体的な取り組みの検討(広報・教育活動の強化、参加機会の提供など) 	<ul style="list-style-type: none"> 課題の要因分析 解決に向けた視点の整理(人材の確保・育成、技術継承、経営支援、市場の整備など) 具体的な対策の検討(試験的施策の機会、施策を学ぶ場の提供など) 	<ul style="list-style-type: none"> 森林カーボンクレジット創出事業について プラットフォーム構築事業について 次のステップに向けた検討(追加調査の必要性、事業者の参画促進など) 	<ul style="list-style-type: none"> パブコメの実施結果の確認 新たな課題の抽出 森林計画に反映すべき具体的な内容の確認 	<ul style="list-style-type: none"> 森林経営、それを取り巻く環境の変化の共有(国内外の動きなど) 今後のスケジュール・進め方の合意
ゲストスピーカー		検討中	静岡県立農林環境専門職大学 鶴飼准教授(仮)			

7-4 計画の位置づけ



【図9】計画の位置づけ

環境関連計画に位置付け予定です